

日本デューイ学会会報

2011年12月15日

目次

- I. 会長挨拶
- II. 第55回研究大会報告
 総会報告
- III. 追悼
- IV. 事務局からのお知らせ

I. 会長挨拶

大震災とデューイ
日本デューイ学会
会長 早川 操

2011年はこの20年間において忘れられない年になりました。その理由は、言うまでもなく3月11日に起きた東北大震災とその後襲った大津波、さらに大津波による原子力発電所の事故です。地震が起きた当日のこの時間には、震源から600キロ以上離れた大学の研究室にいました。研究室で打ち合わせをしていたとき、3分以上にわたって部屋が横揺れました。しばらくして、テレビ報道で東北地方に地震が起き津波が襲ってきたことを知りました。振り返ってみると、その被害の大きさのため、しばらくは思考停止の状態になっていたような気がします。周囲にいる友人や同僚の多くが、その後2か月余りは出張や外出を控えていたことも印象的でした。また、今春に国内で開催が予定されていた国際学会が中止されたことも、何人かの同僚から聞きました。海外からの招待客が訪日の予定をキャンセルし、すでに滞在していた海外の研究

者や留学生が日本を脱出したことも驚きでした。海外の人々による放射能汚染への認識の違いが、原発事故の深刻さをあらためて振り返る機会を与えてくれました。

災害から半年たったこの秋には、金丸晃二先生のご尽力により、関西学院大学の聖和キャンパスにおいて第55回日本デューイ学会研究大会を無事に開催することができました。震災後の春における大会準備段階ではさぞかしご心配されたでしょうが、金丸先生のご尽力により大会案内も順調に進み、プログラム（発表要旨集録）も大会前に郵送していただき、会員の皆様にとっても大いに役立ったことと思います。

大会当日は天気にも恵まれ、40件をこえる個人発表があり、充実した研究交流の機会となりました。大会一日目の10月1日に開催されたシンポジウムの「宗教教育の現状と課題」では、キリスト教と仏教という立場からの課題提起をしていただいたことにより、緊迫感のある討論が展開されたのではないかと感じました。また、大会二日目に開催された課題研究の「教育評価の今日的課題」では、アメリカとわが国の教育評価におけるデューイ的見解の受容や応用などをめぐって、興味深い議論が展開されました。懇親会には多くの方々が参加していただきました。関西学院大学側のご配慮により、宝塚ホテルから提供された料理を堪能しながら、会員同士の会話も弾みました。

学会開催中にも会員の方々との話し合いで話題になったのは、やはり大震災とそれに続

く被害の影響でした。何人かの会員の方と話していたときに、デューイならこの3・11問題をどのように考えるだろうか、という質問を投げかけられました。本研究大会では、大震災とその後の対策についての話し合いは時間の都合上設定することができませんでした。同様の思いをお持ちの方々も多いのではないのでしょうか。ここでその思いについて、少し考えてみたいと思います。

デューイが生きた時代のアメリカでは、震災後の東北の人々が経験したような自然的社会的問題状況や精神的苦痛・不安は生じなかったかもしれません。彼が経験した大きな社会問題は、1910年代の第一次世界大戦と1940年代の第二次世界大戦の二つの戦争と、その間に生じた1929年の世界大恐慌でしょうか。これらの社会問題とそれによって引き起こされた政治経済の混乱と人々の不安に対して、デューイはさまざまな分析と提案を行いました。とりわけ、第一次世界大戦と大恐慌に対しては、それぞれ「知性的平和主義」と「公共的社会主義」というみずからの「実践的理想主義」による解決策を提唱することによって、迷路に入り込んだアメリカ社会に指針を示し、困惑する人々に対して出口を示そうとしました。

いうまでもなく、多くの国々・地域・人々を巻き込み、複雑に入り組んだ社会問題の緩和や解決の糸口を見つけるのは簡単ではありません。これらの問題に対する解決策を提案したデューイの論文は、進歩的知識人や関心を持つ市民によって熱心に読まれたことでしょう。21世紀の私たちが読んでみても、「良心的な実験主義的知識人」としてのデューイが追求した理想の高さをうかがい知ることができます。しかしながら、20世紀前半のアメリカ社会と人々が直面した深刻な問題は、彼が提案した解決策に基づいて解決されたとはいえなかったようです。この点については、

会員の方々は異なった意見をお持ちのことと思います。

おそらくデューイならば、今回の災害とその被害からの復興という問題は、人間の知性への挑戦であるにとらえて、専門家と公衆の協働による科学的探究方法のさらなる精緻化と、不確定で不安な状況をより安定した方向に変えるための行動計画の改善提案をめざすのではないのでしょうか。まず、物理的問題状況における課題は何であるかを科学的に分析して討議し、その結果をさまざまなレベルの人々にオープンにして議論しあうことが求められるでしょう。そのために、原子力、地震科学、防災学、心理学などの専門家が新たな科学・学問のあり方を模索しなければなりません。災害にあった人々もこれから被災する可能性がある人々も含め、われわれの悩み・不満・不安をいかにして軽減するのかという精神的な安定や心の平和を構築する方法も追求しなければなりません。

ここまでは専門家や研究者の課題ですが、デューイの言う「実験主義的方法」が真に知性的であるためには、課題解決のためのこれらの知識・技術・行動計画が多くの人々によって、さまざまな集会や街角、子供や若者が学ぶ学校、親子で語り合う家庭などで語られ共有されなければなりません。実験主義的知性は、最終的には、われわれが生きている日常生活で試されることでその真価が発揮されます。具体的な問題状況のなかで、ともに課題を解決しようとするかかわりあいや協働の姿勢が見られるかどうかは知性的方法の試金石になります。震災直後の人々が助け合い・協力し合い・励ましあう姿は、世界の多くの人々に感動を与えました。それは、日本人の生活に根差した「織り込まれた社会的知性の高さ」を示すものであるといえます。そこには、デューイが言う「アートフルで感動を与えるようなコミュニケーション（対人的相互

作用)」がいきわたっていたといってもよいでしょう。

たしかに、20世紀後半には科学研究やその成果を社会に応用することについての批判や反省も高まり、科学研究の課題や限界が数多く指摘されました。しかしながら、デューイにとっては、科学研究のおかれた現実とそのあるべき理想との間を埋めようとする努力に人間的探究の崇高さを見いだすことができるのではないのでしょうか。ひるがえって考えてみたときに、この8ヶ月間における政府・行政レベルの取り組みと専門家や研究者による対応のあり方はどうだったのでしょうか。歴史的な評価にはまだ時間が必要ですが、今のところはもっと努力が必要ではないかといわれているようです。デューイは1919年に日本を訪問したとき、日本人の好奇心の強さ、優しさ、親切心とともに、官僚制と軍国主義がもたらす硬直性についても指摘していました。現在の日本では軍国主義の問題は後退しましたが、官僚制の課題は形を変えて今も残っているのかもしれませんが。実験主義的方法の普及による「社会的知性」の到来を日本社会に希望したデューイの提言について、今一度考えてみる時期ではないのでしょうか。現在のわが国の問題状況がよりよい状態に変わるための新たな提案や展開が見られることを期待したいものです。

2011年9月の東洋大学における第56回研究大会で、会員の皆様方にお会いできるのを楽しみにしています。

II. 第55回研究大会報告

第55回研究大会は、去る10月1日(土)・10月2日(日)の両日、関西学院大学教育学部(西宮・聖和キャンパス)において開催されました。シンポジウム、課題研究、個人研究

発表ともに充実したプログラムが生まれ、盛会の内に終了することができました。また総会におきましては、芝田正夫関西学院大学教育学部長よりご丁寧なご挨拶を頂きました。準備にあたっていただきました金丸晃二準備委員会委員長をはじめ関西学院大学の皆さまには、大変なご尽力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

以下に、総会で決定しました事項についてお知らせいたします。



山川記念館 (金丸先生撮影、以下同様)



個人研究発表



課題研究 (関西学院大学 西宮聖和キャンパス 山川記念館にて)



総会報告

早川会長挨拶、芝田正夫関西学院大学教育学部長、金丸晃二準備委員会委員長挨拶に引き続き議長選出に入り、水谷勇会員を議長に選出、次の議事及び報告事項が承認されました。

(1) 会務報告 (2010年度)

一、研究大会 第54回研究大会

2010年9月19日(日)、20日(月)

於 大正大学巣鴨校舎

二、理事会 (2009年度～2010年度)

(一) 2009年度理事会

日時：2009年9月18日(土)

17時～18時

於 大正大学巢鴨校舎 10 号館

出席者：鈴木会長代行、新井、市村、
加賀、影山、笠松、鈴木、高浦、
高頭、早川、早坂、藤井、松浦、
行安、滝沢、中野各理事、松下
会計監査

オブザーバー参加：岩崎、中村各幹事
委任状：魚津、甲斐、栗田、杉浦各理事
欠席：米澤会計監査
・2009年度決算及び会計監査、2010年度
予算、研究奨励賞、役員選挙結果、紀要
第52号編集委員、総会提出議題等につ
いて審議

【以上、紀要第52号会報記載事項】

(二) 2010年度第1回理事会

日時：2010年9月20日(月)

16時10分～16時30分

於 大正大学巢鴨校舎 10 号館

出席者：早川会長、新井、小柳、鈴木、
高浦、高頭、滝沢、中野、
早坂、藤井、行安、米澤、
金丸、松下各理事

オブザーバー参加：岩崎、中村、虎岩、
岩瀬各幹事

欠席：市村、魚津、加賀、笠松、
栗田、杉浦、松浦各理事

・早川会長より提案があり、市村尚久、
加賀裕郎、笠松幸一、鈴木順子、高浦勝
義、高頭直樹、早坂忠博、藤井千春、行
安茂、米澤正雄、松下晴彦の各理事を常
任理事とすること、新事務局長を松下晴
彦理事とし新事務局は2011年4月1日よ
り名古屋大学大学院教育科学発達科学研
究科松下研究室内に設置すること(中野
事務局長による仮事務局は2011年3月
31日まで)、また虎岩朋加(名簿管理担
当)岩瀬真寿美(会計担当)を幹事とす
ることを承認。

(三) 2010年度第1回常任理事会

日時：2011年5月28日(土)

13時30分～16時00分

於 早稲田大学国際会議場

出席者：早川会長、市村、笠松、鈴木、
高浦、高頭、早坂、藤井、米澤、
松下各理事

委任状：行安、加賀各理事

・第56回研究大会開催校、研究奨励賞、
2011年会員名簿の作成等について審議
(四) 2010年度第2回常任理事会

日時：2011年9月10日(土)

13時30分～16時00分

於 早稲田大学 16号館

出席者：早川会長、市村、加賀、笠松、
鈴木、高浦、高頭、早坂、藤井、
行安、米澤、松下各理事

・2010年度決算及び会計監査、2011年
度予算、紀要第53号編集委員、理事会
及び総会提出議題等について審議

(五) 2011年度第2回理事会

日時：2011年9月30日(金)

17時～18時

於 関西学院大学大阪梅田キャンパス

出席者：早川会長、加賀、笠松、鈴木、
高浦、高頭、早坂、藤井、行安、
米澤、小柳、滝沢、中野、金丸、
松下各理事、大森、佐藤各会計
監査

委任状：市村、新井、魚津、栗田、杉浦、
松浦各理事

オブザーバー参加：虎岩、岩瀬各幹事

・2010年度決算、2011年度予算、研究
奨励賞、紀要第53号編集委員、総会提
案議題等について審議

三、委員会

(一) 紀要第52号第1回編集委員会

日時：2010年9月20日(月)

12時～13時15分

於 大正大学巢鴨校舎 10 号館
(二) 紀要第 52 号第 2 回編集委員会

日時：2011 年 4 月 23 日(土)
14 時～17 時

於 早稲田大学国際会議場
(三) 紀要第 52 号第 3 回編集委員会

日時：2011 年 9 月 30 日 (金)
15 時～17 時

於 関西学院大学大阪梅田キャンパス

員による著作物で、学会に寄贈された図書とする。

②「図書紹介」欄の取り扱いについては、編集委員会に委ねる。

③「図書紹介」欄の執筆者は、編集委員とする。

④「図書紹介」欄で取りあげる図書は、編集委員である執筆者に贈与する。

⑤原則として「図書紹介」欄は、1 図書につき紀要 2 頁以内とする。

四、会員動向

現会員数

303 名 (16 定期購読機関を含む・2011 年 9 月 20 日現在)

五、刊行物

- ・会報発行(2010 年 12 月)
- ・2011 年日本デューイ学会会員名簿 (2011 年 8 月)
- ・紀要第 52 号刊行 2011 年 10 月 (株式会社ティー・エム・ピー)

(2) 紀要第 52 号編集委員会報告

高浦勝義紀要第 52 号編集委員会委員長より、投稿論文は 28 編 (投稿依頼を含む)、公募論文は 25 編の論文中 19 編を掲載した等の報告がありました。

また図書紹介欄 (の頁数) について、以下の要領で取り扱われることについて報告がありました。

日本デューイ学会

2008 年理事会、2010 年理事会承認事項

『日本デューイ学会紀要』における「図書紹介」欄について

(目的) 学術図書の出版が厳しくなっている状況のため、会員に広く周知することを目的とする。

①「図書紹介」欄で紹介する研究図書は、会

(3) 2010 年度会計報告及び会計監査結果報告

松下事務局長より、一般会計の 2010 年度決算、及び特別会計 A、B の 2010 年度決算について説明がありました。その後会計監査結果について、佐藤会計監査から報告があり、審議の結果、決算案が承認されました。

(4) 2010 年度予算案

松下事務局長より、一般会計の 2011 年度予算、及び特別会計の 2011 年度予算についての説明があり、審議の結果、予算案が承認されました。

(5) 研究奨励賞選考結果について

高頭直樹研究奨励賞選考委員会委員長より、紀要第 51 号を対象とした 2010 年度研究奨励賞は該当者なしであるとの報告がありました。

(6) 紀要第 53 号編集委員について

早川会長より以下の会員に紀要第 53 号編集委員をお願いするとの報告がありました。

再任：新茂之、新井保幸、大森秀子、

早坂忠博、松下晴彦、行安茂

新任：小柳正司、高頭直樹、滝沢和彦、

佐藤隆之

(7) 第56回総会・研究大会会場校について

早川会長より、第56回研究大会・総会の開催を東洋大学（白山キャンパスを予定）において、2012年9月の初旬もしくは中旬（土、日）に開催することについて提案があり承認され、続いて米澤正雄会員より挨拶がありました。

Ⅲ. 追悼

吉田謙二先生を偲んで

加賀裕郎

吉田謙二先生は2010年9月3日、永眠されました。享年72歳、早すぎる死でした。

吉田先生とは、亡くなられた年、合わせて四回お目にかかる機会がありました。最後は6月19日でした。この日、京都ガーデンパレスで大学コンソーシアム関連の会議や講演会があり、二人とも出席していたのです。講演会後には立食形式の昼食会もありました。しかしお互いに別々の出席者と会話しており、話が途切れた時に先生に挨拶に伺おうと思って探したら、先生は既に帰られておりました。

奥様から後に聞いたところによると、先生が外出されたのは、この日が最後だったそうです。最後にお話する機会を生かせなかったのは残念でなりませんが、3月下旬に大阪市内で夕食を共にして四方山話をする時間をもつことができました。この時、既に体に異変があったことを後から知りましたが、先生はいつだって上機嫌で、体のことなど一言も触れられませんでした。だから亡くなる数日前に先生の容体が悪いとの知らせを受けた時は、信じられない思いでした。先生のご両親は長命だったので、先生自身も長生きをし、生涯現役でいたいと念願されておりました。それだけに病魔が襲われたときは、さぞかし

無念だったと思います。

私の大学時代以来、35年程、先生と関わりをもつことができたことは望外の喜びとするところです。先生と私は厳密には恩師が同じ兄弟弟子なのですが、年齢が離れていることもあり、公私ともにお世話になってきました。先生は人見知りの激しい性格でしたが、いったん打ち解けて「出会いがあった」と感じられた人には徹底して世話をする方でした。それで先生の回りに多くの学生が集まり、結果的に多くの研究者を育てられました。

先生は大学時代以来、半世紀にわたり同志社で過ごされた方ですので、同志社が大好きでした。先生の“ash”の一部は京都若王子にある同志社墓地で眠っています。先生はきっと永久の浄福のなかにあることでしょう。

Ⅳ. 事務局からのお知らせ

(1) 会員の動静 (2011年12月1日現在)

1) 現会員数 307名 (定期購読機関等を含む)

2) 新入会員 (紀要第52号記載以降)

矢部朋子 (大阪教育大学附属平野小学校)、木下真一 (同志社大学大学院・院生)、小川由美 (琉球大学) 山本孝司 (九州看護福祉大学) 横山真理 (岐阜県関市立小金田中学校)

(2) 紀要第52号訂正事項

・258頁下段20行目

誤 第五四研究大会は

正 第五四回研究大会は

・263頁下段「会員動向」欄

誤 塚原利里

正 塚原利理

その他、紀要の訂正事項について、お気づきの点がございましたら、事務局までご一報ください。

(3) 2011年日本デューイ学会会員名簿

訂正事項

- ・守谷久代 会員の欄
誤 (所属) 岐阜大学大学院教育学研究科
(郵便番号) 501-1193
(住所) 岐阜県岐阜市柳戸 1-1
岐阜大学大学院教育学研究科
- 正 (所属) 空欄
(郵便番号) 空欄
(住所) 空欄
- ・柳沼良太 会員の欄
誤 空欄
- 正 (所属) 岐阜大学大学院教育学研究科
(郵便番号) 501-1193
(住所) 岐阜県岐阜市柳戸 1-1
岐阜大学大学院教育学研究科
(E-mail) yagiryo@nifty.com

追記事項

- ・鶴木奎治郎 会員の欄
(郵便番号) 261-0001
(住所) 千葉県千葉市美浜区幸町 1-5-2-401
(電話) 043-46-7675
- ・杉峰英憲 会員の欄
(郵便番号) 619-0224
(住所) 京都府木津川市兜台 4-8-12
(電話) 0774-72-5908

その他、会員名簿の記載事項について、お気づきの点がございましたら、事務局までお知らせください。

(4) 寄贈図書(紀要第52号掲載以降)

- 苫野一徳『どのような教育が「よい」教育か』
(講談社 2011年8月)
- 岩瀬真寿美『人間形成における「如来蔵思想」の教育的・道徳的意義』
(図書刊行会 2011年8月)
- J.デューイ、栗田修訳『人類共通の信仰』
(晃洋書房 2011年10月)

黒柳修一『現代イギリスの教育論』

(クレス出版 2011年8月)

柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育-スキ
ゾ・キッズからマルチ・キッズへ』

(春風社 2010年10月)

松下良平『道徳教育はホントに道徳的か?—
「生きづらさ」の背景を探る』

(日本図書センター 2011年10月)

※会員の皆様の業績をお知らせ下さい(著作、
論文、翻訳等)。紀要、会報等でご紹介させ
ていただきます。

(5) 『紀要』頒価

*会員の皆様におかれましては、郵送料は別
途お願いいたします。

号数	1-10 号	12号	17-18 号	24-25 号	26-37 号
会員直接 購入	800	800	700	1,500	1,500
非会員 直接購入	1,000	1,000	800	1,800	2,000
号数	38-47 号	48号	49号-		
会員直接 購入	2,000	3,000	2,000		
非会員 直接購入	2,500	3,500	2,500		

【日本デューイ学会 会報第1号】200円

【在庫切れ】紀要第11号、13号、14号、15号、
16号、19号、20号、21号、22号、23号

※ 在庫切れの号に関して、ご希望の方にはコピーを
お送りいたします(料金実費)。

(6) 会費納入のお願い

本年度(会計年度は9月1日より)の会費未
納の会員の皆様には、同封いたしました「振
込み用紙」にて、会費の納入をお願いいたし
ます。会費は年7,000円となっております
(会則、第2条)。何卒、ご協力の程、宜し
くお願いいたします。

2011年度の会費まで納入されている会員
の皆様には、「会費納入のご案内」他は同封

されておられません。

なお、ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

※ 以下の会員の住所が不明となっております。ご存知の方は事務局までお知らせください。(敬称略)

飯谷敏子、石田正人、今井康晴、岩本一夫、内田満、王頌、大崎和彦、大崎和彦、岡本聡、鬼木宣尚、鏡晃、栗本孝弘、候ビヨウ、城田敏郎、陣野宏史、瀬戸郁子、高橋陽一郎、武田正浩、谷秀雄、千葉雄樹、鄭健泳、寺分典彦、殿塚貴史、中島佳明、中津川順子、仁尾正人、長谷川豊、服部惣一、藤本和久、松本恭子、梁貞模、楊鋳

(7) 事務局のホーム・ページについて

日本デューイ学会事務局のホーム・ページが開設されております。研究大会案内をはじめ会員の皆様への情報の提供に努めてまいります。ご覧ください。

<http://johndewey.web.fc2.com/index.html>
(htmlのlは、アルファベット小文字のエルです。)

また事務局のメールアドレスは次のとおりです。deweyociety@hotmail.com お問い合わせ、ご連絡、紀要の注文、学会へのご要望等にお使い下さい。なお、**ご住所・ご所属等の変更**におきましてもこのアドレスまで是非、ご一報下さい。

発行 日本デューイ学会
発行者 早川 操
発行日 2011年12月

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科 松下研究室内
TEL&FAX 052-789-2616
mail: deweyociety@hotmail.com
郵便払込口座 00120-8-15045
口座名義 日本デューイ学会